研究成果展開事業　研究成果最適展開支援プログラム

産学共同（本格型）　事後評価結果

体系的課題番号	:	JPMJTR221C
採　択　年　度	:	2022 年度
分　　野	:	第 1 分野
研究開発課題名	:	洋上ウインドファームの採算性と耐久性の最適設計に資する日本型ウエイクモデルの開発と社会実装
プロジェクトリーダー 所　属　機　関	:	ENEOS リニューアブル・エナジー株式会社
研　究　責　任　者	:	内田　孝紀（九州大学）

評価結果の総合所見

本課題は、欧州とは異なる日本の環境に最適化された洋上ウインドファームを早期に実現するため、風車間のウエイク相互干渉現象を考慮できる日本型 CAE ソフトウエアを確立し、国内標準技術として社会実装することを目指すものである。

ほぼ予定通りに研究開発が行われ、成果が得られている。特に風洞における小型風車模型を使った基礎データや実機風車を用いた計測データを取得し、ウェイクモデルの改良を行い、高精度化を達成できた点は評価できる。また、本研究の成果を取り入れたソフトウエアが九州大学発スタートアップのリアムコンパクト社からすでに販売されている。

今後、ENEOS リニューアブル・エナジー社と東京ガス社は運用時にも使用する計画であり、本ソフトウエアの有用性を検証し、日本の風力発電事業の競争力強化に寄与してほしい。

以上